



岡田幕別町長から記念品の目録を受け取る山本選手(左)の母美智子さん(左)



幕別の星、五輪へ意欲

会行会 500人が 声援

福島選手 「1本でも多く走る」
山本選手 「思いをぶつけない」

【幕別】ロンドン五輪に出場する町出身の陸上女子、福島千里選手(北海道ハイテクAC―帯南商高出)と、男子マウンテンバイクの山本幸平選手(SPECIALIZED―国際アウトドア専門学校、帯農高出)の壮行会(実行委主催)が18日午後、町百年記念ホールで開かれた。町民ら約500人が活躍を願い声援を送った。

両選手は、前回の北京五輪に続いて2回目の出場。福島選手は100キロと200キロの出場が決定しているが、今後400キロリレー出場が決まる可能性もある。壮行会には、福島選手と両親、山本選手はスケジュールの都合で参加できなかったが両親が出席した。実行委の木川拓二会長が「4年前、小さな町から2人が五輪に出場することが決まり驚いた。今回もまたそろって出ることは想定外の喜び。町民は熱く燃えている」とあいさつ。岡田和夫町長らが激励した。町出身でカナダ・バンク

バー五輪スピードスケート代表の高木美帆選手(帯広南商業高3年)から福島選手に、沖田道子教育委員長から山本選手の母、山本美智子さんにそれぞれ花束が贈られた。福島選手は「ロンドン五輪では1本でも多く走られるよう頑張る」と決意を述べ、会場を訪れた小・中学生に「こんな私でも五輪に出場できた。夢を持って五輪を目指してほしい」と呼び掛けた。

現在、スイスにいる山本選手のビデオメッセージが放映され、「2回目の五輪は成績が求められる。北京五輪で感じた悔しさや思いをロンドンでぶつけない」と語った。最後は、実行委の原正満副会長の発声で、会場の全員で万歳三唱し、選手を激励した。応援に来た札内中陸上部の餌取武里士主将(3年)は「福島選手は格好よく、目標になる。体幹の鍛え方など教えてもらいたい。頑張ってほしい」と話していた。(平田幸嗣)

(11面に関連記事)